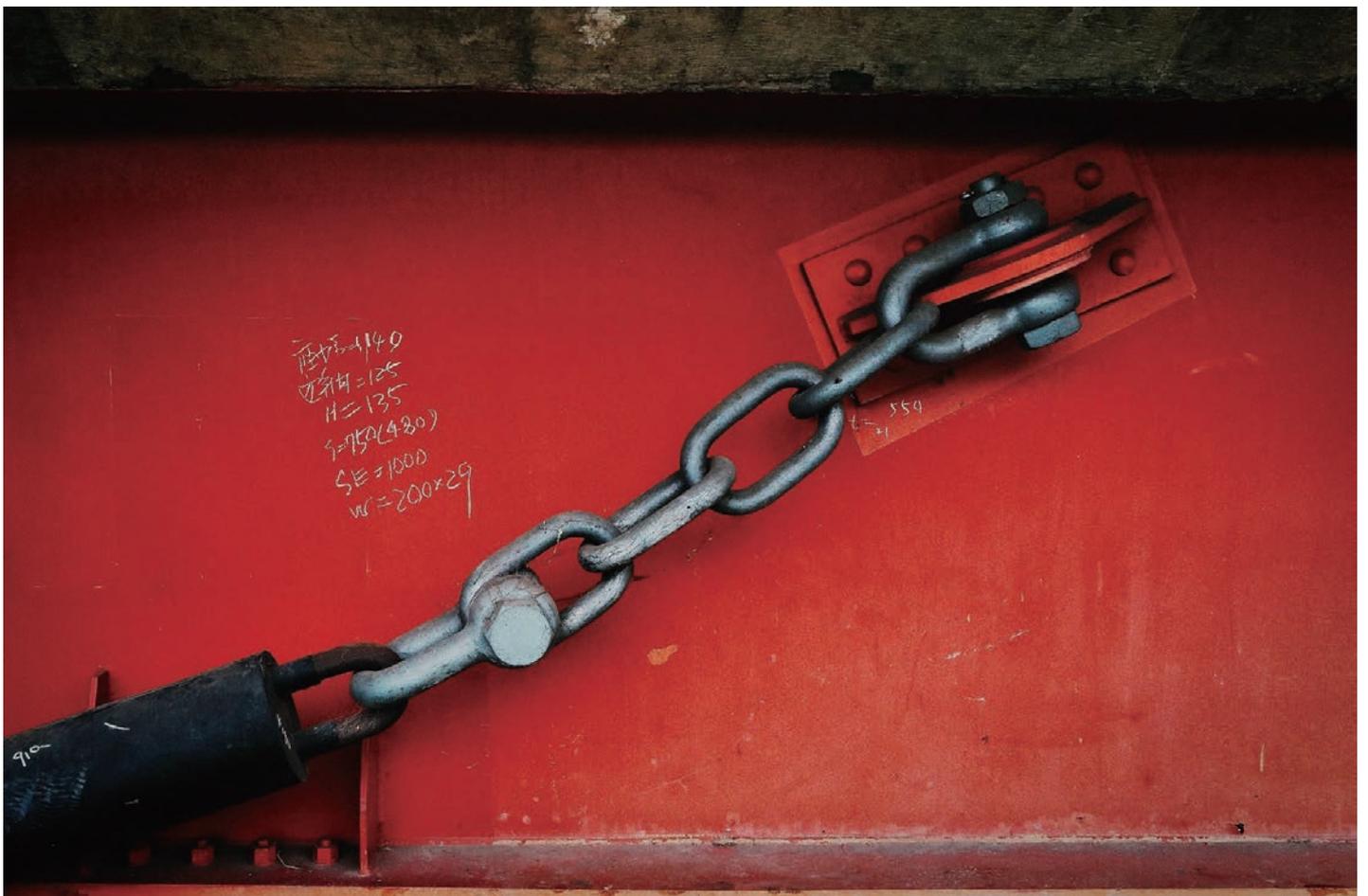




# 埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第80号

令和7年1月



## 巻 頭 言

副会長 伊 藤 彰 紀 (4 期生)



新春の候、同窓生の皆様にはますますご健勝の由、お慶び申し上げます。

昨年のお正月は元旦に震度7の能登半島地震が発生し、400名以上の死者が出る大惨事となりました。被災された多くの皆様には心よりお悔やみ申し上げます。同窓生の動向も調査させていただきましたが、把握できた範囲では石川県と富山県の同窓生からは幸いに大きな被害の報告はございませんでした。何れにしましても、何かとご不便なことは多々おありになったものごと拝察申し上げます。今年は全国の同窓生の皆様が平穩に過ごせる良い年でありますようお祈りしております。

さて、旧年中は同窓会活動に対する会員の皆様のご協力ならびにご支援により、一年を通し同窓会活動が順調に行われましたことをご報告し、ここに厚く御礼申し上げます。具体的には、年1回の総会、年2回の常任委員会、会報の発刊、落合記念賞奨励助成金の選考、海外留学援助金の選考、医師国家試験対策、医師国家試験既卒者対策、大学祭・東医体への学生支援、3病院の研修医歓迎会、産業医講習会への寄付、同窓会ホームページ (<http://www.sms-dosokai.jp>) の更新 (会報抜粋、各種助成金の応募要項掲載、ドクターズマップ、等)、私立医科大学同窓会連絡会 (東部会、全国会) への参加、「同窓生の教授就任を祝う会」の開催、大学の創立50周年記念事業への寄付、等々幅広く活動をしています。ホームページには一般用と会員用の二つのサイトがあります。会員サイトに入るIDとパスワードをお忘れの方は事務局へお問い合わせください。

従来からの同窓会役員は、稲葉宗通会長 (4期生)、田中政彦副会長 (3期生)、辻美隆副会長 (16期生)、丸木清之副会長 (25期生、学校法人埼玉医科大学理事長)、伊藤彰紀副会長 (4期生) です。さらに昨春秋の常任委員会において、稲葉会長よりご推薦があり、森田智子先生 (21期生) が副会長に就任されました。引き続き同窓会役員の方の若返りと同窓会の活性化を図りたいと思っています。

話は変わりますが、学内のみならず他大学も含め、

教授に就任した同窓生は今までに50名いらっしゃいます。その中の47名に「同窓生の教授就任を祝う会」を同窓会主催で開催しました。多数の同窓生が様々な教育施設でご活躍ですが、他大学と比較しますと、まだまだ教授就任数は少数であります。教授数が大学の実力を表すものではありませんが、やはり埼玉医大の卒業生が、臨床・研究で活躍している指標の一つには成り得るものと思います。同窓会としても同窓生のキャリアアップを支援するとともに、祝賀会の対象者がさらに増えることを期待しています。

ところで、昨年の明るい話題と言えばドジャースの大谷翔平選手のメジャーリーグベースボール (MLB) で初となるホームランと盗塁の50 / 50の達成と、3度目のMVP受賞でしょうか。指名打者 (DH) としてはMVP初受賞とのこと。野球に限らず、海外で活躍している日本人スポーツ選手をあげたら枚挙にいとまがありませんが、これだけ注目され話題をさらう選手は後にも先にも大谷選手しかいないのではないのでしょうか。今年は投手に復帰できるのか大変楽しみです。何れにしても、大谷選手には今年も日本人の希望の星でいて欲しいと思います。

さて、埼玉医大でも最近はスポーツの明るい話題がありました。昨年11月3日に開催された第65回東日本実業団駅伝で、オール埼玉医大のアスリートクラブ男子が参加42チーム中10位に入り、今年の元旦に行われる全国大会 (第69回のニューイヤー駅伝) の出場権を得ました。これは3年連続4回目のお出場となります。従来は上位12チームが全国大会へ出場できたのですが、今年は10位までという狭き門でしたが、これをクリアしての連続出場を達成しました。埼玉医大のブランディングアップに大いに貢献したものとご拝察致します。この会報が皆様のお手元に届く頃にはニューイヤー駅伝も終わっていると思いますが、アスリートクラブの皆さんのご健闘をお祈り致します。

もう一つ大学の新たな話題としては、食堂 (学生・職員用) と体育施設 (錬成館の代わりとなる武道場) を兼ねた地上5階地下1階の建物が令和7年12月に

竣工予定となっています。場所は丸木記念館から一段降りたところで、旧看護専門学校跡地になります。学生にとっては待ちに待った学食ができると同時に、剣道部、柔道部を始めとする武道関連の部活動にも朗報と存じます。医学部生に対する福利厚生への大学のご配慮に感謝したいと思います。

次に、大学の現状ですが、今年の6年生は今までになく人数が多く153名でした。これは、入学定員が130名に増えたことと、さらに留年者などが加わった人数です。昨年11月22日には卒業内定者が発表され、それによりますと、卒試内定者136名、留年者14名、退学者3名という結果でした。不合格者が例年よりやや多い印象ですが、6年生の総数が多いことによるものと思います。今後はさらに国家試験が待っています。6年生には最後の頑張りを期待したいと思います。また、6年生だけではなく各学年には同窓生のご子弟も多数いらっしゃると思いますが、勉学に励み、最終的には国家試験合格を必ず勝ち取って頂きたいと思います。ところで、6年生で最近話題となっていることに、研修施設へのマッチングの問題があります。特に、希望する研修施設に中々マッチできず、いくつかを併願する場合などは、その煩雑な手続きに追われ、卒業試験に向けての勉強が疎かになるという優先順位が本末転倒になっているようです。埼玉医大の3病院自由選択プログラムなどはフルマッチのようですが、大学として卒業生の研修は優遇して頂けると思いますので、卒業生には是非母校での研修をお勧めしたいと思います。

ところで、何れの医大でも同様と思いますが、最近の働き方改革により、埼玉医大の各病院の収益にも厳しい影響が出ているとお聞きしています。また、大学の使命である研究にも支障を来しているようです。働

き方改革も大切ですが、教育機関でもある医科大学では診療、研究、教育のバランスを取りながら、さらに臨床では多くの経験を積み重ねていかないとはいけません。大学病院などは、基本的にこの働き方改革にはマッチしない職場ではないでしょうか。

会員の皆様の中にはご存知の方もいらっしゃると思いますが、全国私立医科大学同窓会連絡会という組織があります。それは、関東甲信越より東側の私立医大の同窓会から成る「東部会」と、同様に東海近畿北陸以西の「西部会」の2つに分かれており、それぞれ東部会には18校、西部会は11校の私立医大同窓会が加盟しています。現在は、東部会および西部会の連絡会が年に1度行われており、さらに全体をまとめた全国連絡会(全国会)も年に1度開催されています。その年の当番校は持ち回りとなっていますが、令和7年度に予定されている第54回東部会の当番校は埼玉医大同窓会となっています。会期は令和7年7月12日(土)、会場は川越プリンスホテルを予定しています。同窓会員の皆様のご支援とご協力をお願い致します。

昨年は夏が過ぎてからも猛暑が続き、その一方で11月には急激に気温が下がり、秋を十分に味わうことが出来ませんでした。気候変動の結果、日本の四季の中でも、最も人気のある春と秋がなくなり、夏と冬のみになってしまうのではないとも言われています。それぞれの季節で良さがありますので、いつまでも四季の良さを味わいたいものです。

令和7年(2025年)は巳年です。脱皮する蛇は不老長寿や強い生命力につながる縁起の良い動物と考えられています。この干支にあやかり、同窓会員の皆さまには縁起の良い年となりますことをご祈念申し上げます。巻頭言を閉じることに致します。